

2024 年度（令和 6 年度）自己評価

本校は、学校教育法および同施行規則に則り学校評価制度を制定し、文部科学省が定める「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って「学校評価」を実施しています。「学校評価」を実施するに当たり、最初のステップとして基礎的な資料を得るために毎年2月に生徒及び保護者へのアンケート調査を行い、その結果を踏まえて自己評価を実施しています。自己評価につきましては、学校評価委員会で議論し、教育活動の一層の向上につなげるよう努力しています。

前年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）の学校運営・教育活動等について、教職員による自己評価を下記に公表いたします。

関西外語専門学校 国際高等課程

学校長 花畑 好一

1. 本校の教育目標、教育方針

「生きた英語力」を身につけて国際舞台で活躍できる「真の国際人」を育成することが本校の教育目標です。このためには、グローバル化社会の中で、幅広い教養と自分の考えをもって主体的に生きることができるよう教育を施しています。なお、この教育方針の背後には、生徒を1人の人間として大切に育むという、法人全体の教育理念「血の通った教育の場」が脈々と流れています。

具体的な教育方針は次の通りです。

- 1) 「生きた英語力」を研ぐため、授業の中でできるだけ多く英語を使用する。
- 2) 国際力を研ぎグローバル社会に通用するよう育むため、日本人教員に加え、諸外国の教員による授業を実施することで、国際理解を深め、多様な考え方や価値観に触れさせて、多様性を受容する広くて柔軟な心を育む。
- 3) 少人数授業を大切に、ディスカッションやプレゼンテーションなどの参加型教育（アクティブ・ラーニング）を授業に取り入れ、自ら学ぶ姿勢、自分で考え発信する能力及びコミュニケーション力を育成する。
- 4) 将来の進路に備えるための基本的な学力・教養教育を大切にする。
- 5) 個性と自由を尊重すると同時に、グループ・集団で活動できるよう規律、協調、コミュニケーションを大切に、互いに認め合い協力する姿勢を涵養する。

2. 2023 年度（令和 5 年度）の重点的な取組事項

- 1) 6 レベルによる習熟度別クラスを、少人数クラス（15 名程度）で実施。
昨年度に引き続き 6 レベル展開（計 10 クラス）で授業を行った。また、学年クラス・英語クラスとも少人数（15 名程度）で実施した。

2) 模擬国連大会の実施

昨年までコロナ感染の影響によりオンライン・オフライン併用で実施していた関西高校模擬国連大会（京都外大西高校主催）が3日間対面実施となった。本校主催の模擬国連大阪大会は昨年同様対面で実施した。昨年は大阪国際交流センターの改修のため都シティ大阪天王寺で開催したが、改修が終わったため今年度は大阪国際交流センターで開催した。【世界の水をめぐる危機】という議題のもと関西圏および広島・岡山などの高校計12校で実施し、生徒たちは前向きに取り組んだ。また、学内模擬国連大会についても、伝統を維持し下級生にノウハウを継承するため、2・3年生及び1年生の一部を対象に2月下旬に大阪国際交流センターで実施した。

3) 英語スピーチコンテストの実施

コロナ禍中は、本館2F大教室での実施に制限のあった英語スピーチコンテストを、久しぶりに一堂に会して同会場で実施し、一体感とともに感動的なスピーチコンテストを実現することができた。

4) 3年生の多様な進路に対応する受験指導

3年生53名の希望進路に対応し、集中科目を開講するとともに、大学・短大・専門学校総合型選抜入試（旧：AO入試）・グローバル入試、推薦入試（指定校・公募制）、一般入試の受験指導に加え、海外留学、就職など多様な希望進路に対応し受験指導を行った。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標など

	評価項目	評価
教育理念 目標など	教育理念が定められているか	4
	教育目標が明確にされているか	4
	教育目標は社会のニーズに適しているか	4
	教育目標や方針は生徒・保護者・社会に周知されているか	4
	教育方針は教育目標を実現する適切なものとなっているか	4
	社会のニーズを踏まえた将来構想が描けているか	4

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

2023年度を含む近年は、政治・経済・環境等において、対立の構造と共に諸国・諸地域のグローバルな結び付きが明らかとなっている。

本校は専修学校高等課程という強みを活かして、世界情勢に敏感で豊かな経験を持つ外国人教員や日本人教員の授業を数多く配置し、カリキュラムを柔軟に編成し、英語力をベースに高校生が目をつけるべき実践的な国際教育を推進している。本校の教育方針及び教育内容は、時代をしっかりと捉えたものと評価できると考えている。

(2) 学校運営

	評 価 項 目	評価
学校運営	教育目標に沿った運営方針が策定されているか	4
	事業計画・中期計画に沿った運営が実施されているか	4
	適正な教育活動を実施するため、職員会議は定期的に行われているか、また、有効に機能しているか	4
	人事・財務などの意志決定組織は整備されているか	4
	地域社会等へのコンプライアンス体制が整備されているか	4
	教育活動に関する情報公開は適切になされているか	4
	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

今後とも日本がグローバル化の只中にあることを前提に、実践的英語力・国際力の必要性に対応するため、運営方針・事業計画・中期計画は教育目標に沿って策定している。

職員会議は原則、週 1 回実施しており、教職員が適切に学校運営や教育活動に携わることができるように情報の共有化を図り、諸事項を調整の上、諸課題に対応すべく意思決定を行っている。

諸規程については法人全体に関わる規定は法人本部及び総務部が管轄管理し、本校教育にかかわる規程については本校で案を策定し、理事会等の上部機関の承認を経て決定されている。規程策定においても日常の学校運営においてもコンプライアンスには常に留意している。

情報公開については、ホームページ、学校案内・募集要項などの印刷物において適宜行っている。

なお、情報システム化、事務の効率化は順次進めている。iPad 端末による出席管理システムは 2015 年度当初より導入し、生徒数・クラス数増に対応した。導入 8 年目となり、不具合が生じることもあるが、適切に対処しつつ基本的には順調に運用している。今後とも、システム化・効率化は推進して行きたい。

(3) 教育活動

	評 価 項 目	評価
教育活動	教育目標に沿ってカリキュラムが編成されているか	4
	専修学校設置基準や教育目標に沿った授業時数や学習時間が確保されているか	4
	カリキュラムは体系的に編成されているか	4
	カリキュラムは時代の変化や現実社会の必要に対応しているか	4
	授業計画及び内容は、現実社会との関連したものとなっているか	4
	少人数授業は堅持されているか	4
	授業の多くは、参加型授業（アクティブ・ラーニング）となっているか	4
	「生きた英語」教育は施されているか	4
	国際教育は施されているか	4
	模擬国連の指導は実施されているか	4

	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
	海外研修・ホームステイなどの国際交流プログラムは計画・実施されているか	4
	情報教育は実施されているか	3
	衛生・保健教育は実施されているか	3

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

カリキュラムは、本校教育の最重要事項として、検討・改善を重ねている。「生きた英語」教育、国際教育は、各教科の基本事項・重要事項をおさえつつ、現実社会で起こっている諸問題・諸課題を取り上げて授業を展開している。大学入試改革に対応すべく2・3年生を対象に「選択必修科目」を設けており、生徒個人の進路に応じて科目選択を可能としている。2022年度の高校新学習指導要領スタートに合わせて本校においても教育課程を改訂した。

授業方法においては、教員が一方向的に知識を教える従来型の教授法（講義型授業）でなく、生徒が自ら考え発信するスタイルの授業を重んじている。少人数制の参加型授業（アクティブ・ラーニング）を数多く実施し、現実社会で起こっている諸課題についてディスカッションやプレゼンテーションの機会が多いこともあり、生徒アンケートで「授業が楽しい。」と答える生徒が多く、91%の生徒が「世界のことや国際的なことをこの1年でたくさん学んだ。」と回答し、84%の生徒が「授業は自分にとって有意義で、多くのことを学んでいる。」 また、77%が「授業のおかげで、この社会やいろんなことに関心を抱くようになった。」と答えている。一方、科目によっては文科省が定める高校の学習指導要領に則った分量を授業で取り扱う必要上、講義型授業も実施している。

英語教育は習熟度別クラス編成を採用し、集中授業では選択制で個人の学習ニーズや興味に沿って履修できるようにしている。本校独自の英語カリキュラムにより87%の生徒が「今年の4月に比べて自分の英語力は向上したと思う」と答えている。なお、習熟度別クラス編成・選択制科目実施のためには膨大な出席・成績に関わる事務が発生しているが、事務方の惜しまぬ労力があることも付記しておきたい。

模擬国連大会は、両大会とも対面開催となり、生徒たちは全力で取り組んだ。本校主催の模擬国連大阪（大阪大会）は第9回目の開催であったが、関西圏および広島・岡山などの計12校から約200名の参加となった。「The Global Water Crisis（世界の水をめぐる危機）」という議題や1) Water Scarcity 水不足 2) Water-related Disasters 水災害というトピックについて積極的に議論できたことを評価している。

なお、2年生は希望者を対象に2週間のオーストラリア研修旅行を実施し、13名（引率2名）が参加した。SydneyのMenai High Schoolの生徒とともに滞在するグループとBlakehurst High Schoolの生徒とともに滞在するグループに分かれてホームステイおよび現地校の授業や行事に参加するプログラムを実施した。

なお、例年1・2年生対象に実施している海外研修について、1年生は海外渡航状況及び航空運賃高騰を考慮し、国内研修旅行（九州方面）に変更して実施した。

(4) 生徒指導・進路指導

	評価項目	評価
生徒指導 進路指導	基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか	4
	基本的な学習姿勢の確立のための取組が行われているか	4
	生徒・保護者からの相談体制は整備されているか	4
	いじめ防止対策が施されているか	4
	学校の秩序を維持するための取組が行われているか	4

	進路説明会や進路のための情報提供は行われているか	4
	大学受験模試は実施されているか	4
	進路のための生徒面談は行われているか	4
	進路のための三者面談は行われているか	4
	受験対策指導は行われているか	4

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

本校は、一定量の宿題を課し、予習復習を基本とする教育を実施しており、生徒の多くが基本的な生活習慣・学習習慣を確立していると評価している。但し、思春期の特徴でもあるが、中にはサポートや指導を必要とする生徒も在籍しており、クラス担任を中心に指導・ケアしている。加えて、必要に応じ常駐の臨床心理士や保健室看護師によるカウンセリングを実施している。

進路指導は、少人数教育の特徴を活かして、生徒個人の希望に対応するため、生徒面談、三者面談など1人当たりの生徒に時間をかけて指導している。情報提供のためには2023年度も大学・専門学校の教職員を招いて分野別説明会を実施した。また、ホームルーム等を利用して将来進路について考える取り組みを行った。海外留学については台湾進学ゼミなど外部機関による説明会を実施するとともに、教職員による留学指導も実施した。なお、春休みや夏休みには大学・専門学校等のオープンキャンパスに積極的に参加するよう指導している。また、天王寺という地の利を活かし、授業終了後に近隣施設で実施される進学イベントへの参加も促している。

(5) 特別活動等

	評価項目	評価
特別活動等	新入生歓迎プログラムがあるか	4
	生徒交流活動が実施されているか	4
	伝統文化活動あるいは芸術鑑賞は実施されているか	4
	課外活動は実施されているか	4
	防災教育・訓練は実施されているか	4
	学外でのコンテストやイベントに参加しているか	4
	生徒会は機能しているか	4
	卒業生を祝福するイベントは実施されているか	4

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

アットホームな校風を維持し、学年を超えた生徒間交流を促進する努力は課外活動・ハロウィンパーティを中心に毎年実施している。2023年度は5月に生徒会を中心とした運動会、10月にハロウィンパーティを実施した。

国際人とは、世界のことを知るばかりでなく、自国（日本）を知り「自国（日本）を語る人」であり、同時に文化教養や芸術的な素養も身に付けていることが大切であると考えている。このため、伝統文化活動あるいは芸術鑑賞を毎年実施し、日本の伝統文化や芸術に接する機会を提供している。2023年度は笑いの文化としての吉本新喜劇を鑑賞した。防災教育については2月に防災教育専門家を招いての研修会を実施した。

(6) 学修成果

	評 価 項 目	評価
学修成果	英検の合格状況はどうか	4
	英語偏差値は伸びているか	4
	大学等への進学状況は希望に合致しているか	4

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

過去5年間の卒業生の実績詳細は学校案内に記載している。2023年度卒業生の進路については、ほぼすべての生徒が希望進路を実現した。希望進路実現に必要な英語力について、英検では83%の卒業生が2級・準1級・1級に合格している(準1級・1級では23%)。本校卒業までに2級・準1級に合格することは生徒個人の将来にとって有益であると考え、受験しやすい環境を整えるため2023年度より本校校舎を準会場とすることとした。

(7) 生徒支援・学費・奨学金

	評 価 項 目	評価
生徒支援	就学支援金の紹介や受給手続きはできているか	4
	大阪府授業料支援補助金の紹介や受給手続きはできているか	4
	大阪府育英会の紹介や受給手続きはできているか	4
	日本学生支援機構・予約奨学金の紹介や受給手続きはできているか	4
	その他の奨学金等の紹介や受給支援はできているか	4
	保護者との連携はできているか	4
	担任教員等による生徒支援はできているか	4
	臨床心理士による生徒支援はできているか	4
	卒業生への支援体制はあるか	3

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

就学支援金、大阪府授業料支援補助金はさくら連絡網でも随時案内している。また、学校でもオリエンテーション段階より説明する機会を設け、受給手続きについても適格に実施している。なお、所得など条件により受給金額が異なる複雑な制度であるため、プロジェクターを使って視覚でもわかるように説明しており、保護者からの問い合わせにも大阪府に相談しながら的確に対応している。保護者との連携については、PTA総会(年4回実施)及び学級PTAを実施し、分野別進路説明会など教育活動を保護者に理解していただける機会を設けている(学級PTAは2022年度に導入)。高校生活を支援するため臨床心理士による面談を全校生徒対象に実施した。なお、卒業生支援については、大学編入のための受験支援や留学支援などを行っている。実際、特に用事がある訳でもないが、卒業生がしばしば本校を訪れて頑張っている姿を見せてくれている。なお、校友会・同窓会組織の立ち上げが課題となっている。

(8) 教育環境

	評 価 項 目	評価
教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3

	防犯・防災に対する体制は整備されているか	4
--	----------------------	---

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

施設・設備について、2014年後期より別館（全面的に耐震補強及び内装外装を施し新築に近い仕様の校舎）を使用しており、少人数授業に適した教室数を十分確保でき、学年単位で授業や諸活動ができる大教室も確保している。各階に防犯カメラを設置しており、校舎入口に受付を設けて外部からの侵入を防いでいる。守衛が校舎を定期的に巡回することで生徒の安全管理に努めている。

(9) 生徒の受入れ募集

	評 価 項 目	評価
生徒受入 募 集	中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組は行われているか	3
	ホームページでの情報提供は行われているか	4
	学校案内・募集要項等の印刷物での情報提供は行われているか	4
	オープンキャンパスでの情報提供は行われているか	4
	生徒募集活動において、資格取得・進学状況等の情報は正確に伝えられているか	4
	生徒納付金は妥当なものとなっているか	4
	オリエンテーションは実施されているか	4
	入学前学習は実施されているか	4

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

大阪府及び近隣府県の中学校への情報提供については、学校案内・募集要項・進路実績・入試合格状況など送付している。また、受験する可能性のある生徒については、在籍中学校を訪問して教育方針や指導方針、教育の概要、入試などについて伝えているが、あまねく訪問しての情報提供には至っていない。

なお、昨今の有効な方策としてはホームページの充実による情報提供に取り組んでいる。ホームページ・ブログ欄で教育活動や英検等合格状況の最新情報を掲載し、ブログ記事も頻繁にアップすることで、教育への取り組みを公開している。X（旧ツイッター）の公式アカウントも開設し、ブログ記事に加えてインスタグラムでの発信も行っている。

なお、3月末に実施している新入生オリエンテーションとは別に各入試の合格発表後に合格者オリエンテーションを実施しており、入学前までに事前学習ができるよう工夫している。

(10) 財務

	評 価 項 目	評価
財 務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
	財務・決算書類において会計監査は適正に行われているか	4
	財務状況は適正に公開されているか	4

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

学費値上げを抑制しつつ少人数授業を維持することは学校経営にとって決して容易でないが、将来の改革や環境整備を視野に入れ適正に収支バランスを取ることに取り組んでいる。教育環境の整備・改善、教員補充、情報化・システム化のための財源を確保することが課題となっている。将来展望をもって成長できるように中期計画に則った単年度計画の実現及び中長期的な財政基盤安定のために努力している。なお、公認会計士、監事により適正な会計監査を行った財務諸表をホームページ上に公開している。

(1.1) 法令等の遵守

	評 価 項 目	評価
法令等の 遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
	自己評価結果を公開しているか	4
	学校関係者評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
	学校関係者評価を公開しているか	4

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

学校運営や教育活動は、適正な学内手続きを経て実施しており、法令・規程順守には常に留意しており、チェック機能が有効に働いていると評価できる。個人情報保護にも細心の注意を払っている。また、自己評価・学校関係者評価は学校運営や教育活動を振り返り、改善していく良い機会と考えている。

(1.2) 社会貢献・地域貢献

	評 価 項 目	評価
社会貢献 地域貢献	英語教育資源を活用した中学校教員への支援	3
	英語教育資源を活用した中学生への支援	3
	英語教育資源を活用した地域への支援	3
	生徒にボランティア活動を奨励、支援しているか	4

(評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切)

コメント・課題・改善事項

本校の教育力(外国人教員による英語教育力)を活用して中学校の英語教育力向上に資するように、毎年夏休みの時期に、英語教員を対象に英語研修プログラム(Brush Up Lesson)を開講し、中学生を対象に英語によるコミュニケーション力向上講座を実施しているが、教職員による地域住民に対して公開講座等は開設していない。しかし、地域活動ボランティアサークル(地域児童に英会話を教える活動など)を生徒有志が立ち上げ、生徒たちの能力・特質を生かした地域活動を行っている。

以上

【2024年度学校関係者評価】

学校評価に関する本校規程に従い、2024年9月21日に学校運営・教育活動に関する学校関係者評価委員会を実施しました。外部有識者1名及び保護者代表（PTA役員）6名の計7名が出席し、「2024年度（令和6年度）自己評価」及び学校診断（生徒・保護者からのアンケート）について検討しました。教職員6名が陪席し、現況などについて必要に応じて説明しました。自由な雰囲気の中で課題点に関する協議が進められ貴重な意見が多数出されました。学校関係者評価委員会での議論を以下にまとめ公表させていただきます。

関西インターナショナルハイスクール
（関西外語専門学校 国際高等課程）
学校長 花畑 好一

学校関係者評価委員会 2024年9月21日（土）12:15～13:45 本校B01号教室で実施
出席した学校関係者評価委員 計7名

外部有識者 1名（奈良県立高校社会科教諭を歴任。現・奈良教育大学特任講師）

保護者代表 6名

※陪席 教職員6名（副校長、1年学年主任、2年学年主任、3年学年主任、事務長ほか）

事前送付資料 1) 『2024年度（令和6年度）自己評価』

2) 『2021-2023年度【学年末】学校診断（生徒）』（アンケート結果）

3) 『2021-2023年度【学年末】学校診断（保護者）』（アンケート結果）

当日配布資料 * 『2023年度【学年末】学校診断アンケート結果分析資料（生徒・保護者）』

委員会の冒頭、副校長が出席者、陪席者を紹介し、学校関係者評価委員会の趣旨及び委員会の進め方、主な議題及び委員会実施予定時間を確認した。また、参加委員、陪席教職員の忌憚のない意見を交換することで、よりよい教育活動に向けた改善に繋げることを確認した。

議論の進め方については、限られた時間で有益な議論を実施するため、事前に送付した資料の『自己評価』及び『学校診断』に加え、今回新たに作成した『2023年度【学年末】学校診断アンケート結果分析資料（生徒・保護者）』を用いることとし、特に分析資料の評価において、課題となる点を取り上げて議論することとした。

全体を通して、委員会は『自己評価』及び『学校診断』は妥当であることを確認した。

委員会での協議および発言主旨の記録

なお、文中のKIHS（KI）は本校のことである。

副校長（陪席）： まずアンケート項目に数値を入れた資料をご覧ください。上半分は、生徒

と保護者、まったく同じ質問ではありませんが、同じ内容の質問を対比させて記載しております。数値は、「よく当てはまる」「ややあてはまる」という肯定的な意見が全体の何パーセントであったかを示しています。

下半分の表は、その数字を肯定的な意見の多いものを上から順に並び替えたものです。アンケートは基本的に肯定的なご意見が多いので、便宜的に80%未満を赤色で分けてみました。

今回はこれを前提として説明させていただきます。

面白いのは、生徒の評価はそんなに辛くないが、比べて保護者の方が低い。保護者の目から見たら、学校の対応はどのように映っているのか、どのような改善点が見えるのか。

翻って上部の資料の「教育方針と学校生活全般において」のところでは、保護者の方からは非常に高い評価をいただいています。しかし生徒には入学に際して「グローバル化を意識した」など学校の特色がまだまだ自分の中で見えていないことも含めてちょっと低いのかと思います。それは授業に関する質問でも保護者の方の肯定の数字が高いのですが、「生徒指導・生活指導について」では、むしろ生徒の方が肯定しています。保護者の方が生徒からお聞きになったことをシビアに受け止めていらっしゃる、ということが見えたりしています。

ここから、これはどういうことか、どのように改善できるのか。また、評価の高いものはKIの特色として今後もっと伸ばしていくにはどのようにしたらいいのか、を総合的に話し合いたいと思います。

外部有識者：現在、大学で教育実習の担当をしています。学生同士で学び合いをしている様子を見かけますが、それはとても大切だと感じています。そこには子ども同士の関係性があります。その関係性の上に立って、学校はその環境をどう提供できるかというのが、小学校から大学まで共通している課題かと思っています。

同様に、KIも子ども同士の学び合い、子ども同士の関係性をどのように学校で作っているか。

学校での教育・指導は、個別的なアプローチ、集団的なアプローチがあります。個別的なアプローチは例えば、担任が寄りそって進路指導をしたり、生活上の課題を一緒に考えたり、ということがあり、それが非常に大切です。一方で集団的なアプローチでは、子どもたちが試行錯誤しながら、時にはぶつかったりしながら、そこで学んでいきます。KIでもそういう子ども同士の学びを充実させていくのが、課題だと思います。

というのは、一つはアンケートの中で「学校行事・課外活動は充実している」という項目での評価が低い。これは生徒たちが、学校行事・課外活動に対して、もっといろいろ期待をしているのではないのでしょうか。子どもは他の高校に通う友人の話を聞いたりして、少なく感じているのではないかと、アンケートから感じます。学校行事や課外活動は、学習指導要領の特別活動と言われるものですが、これに部活動は含まれていません。部活動というのは、本来学校でしなくてもよい活動です。

学校でなくていい活動でありながら、日本の学校の非常に大きな特徴にもなっています。KI の生徒の中には、部活動のようなものを望んでいるお子さんがいるのかもしれませんが。

副校長（陪席）： 実際にお子さんからどんなことをお聞きになっているのか、または保護者としてもっとこうして欲しいということがあればご意見をください。

保護者 A： 行事について足りないということは聞いたことはありません。自分の仲のいいグループが充実していればよいと、満足しているようです。

保護者 B： KI の生徒さんは個々の活動をしている人が多い。元々、男子が少ないけど、学外の活動で遠征に出かけたりしている。

息子は部活動のようにボクシングジムに通っている。高校3年生になって、厳しい部活動に入りたいと言い出したことがあった。ボクシングジムは一人なので、行きたいときに行けばよい。先輩の目があったり、追い込まれたり、そういう経験をしたことがない。ダレてしまう自分に対して、少しでいいのでそういう経験をしたいと言っていたことを思い出しました。

副校長（陪席）： 英語クラスはレベル別編成で先輩後輩と一緒に学んでいますが、理不尽な関係はありませんね。

保護者 B： そういう環境にないことが、アンケートの数値が低い原因かもしれません。学校行事では、芸術鑑賞として去年宝塚歌劇団を見に行きましたが、自分では行かないし、選択しないものだと言っていました。良い経験として捉えているようです。

保護者 C： 子どもたちがこの質問にどの程度理解して答えているのか分からないですが、部活動をイメージしていたり、個人の学外の活動が忙しくて必要としていないと考えている子もいると思います。実際の何に対して答えているのか当てはまらないと、対策は立てにくい。KI では子どもに英語を教えるサークル活動はされているので、他にも例えばダンスサークルが活動できる環境を作ってあげることで、課題がクリアできるのではないのでしょうか。

反対に興味のない子の場合は先に進めないのが、親が子どものしたいことを知っていれば親から子どもへの声掛けができるのではと思いました。

その他、学校行事でいえば、芸術鑑賞に関して、鑑賞する内容を定めるために生徒の意見を聞いてほしいと言っていました。

副校長（陪席）： 今まで生徒の意見を聞いたことがなかったのが新たな視点をいただきました。

ではここで、KI の英会話サークルについて、説明をお願いします。

教員 A（陪席）： 卒業生が発足させた小学生等の年齢の子に英語を教えるサークルで、この学校を近隣の方にも知ってもらいたいという目的もあります。

学校のバックアップがないとやれませんが、ほとんど生徒主体で運営しています。顧問は手続きをしたり、ハンコを押したりという形で関わっています。

集まっているメンバーも同じような志を持っている生徒たちです。入っても自分には合わないと感じた生徒は抜けていきます。今残っているのはコアなメンバー

です。

副校長（陪席）：ほかに生徒に参加を呼び掛けられるものは、生徒会活動があります。

教員 B（陪席）：KI の生徒会は、いわゆる『学校の生徒全員が生徒会です』という感じではなく、部活動のようです。

1 年生も 2 年生も多く参加していて、活発に活動しています。

副校長（陪席）：二つとも、今年の入学式にで、入会をアピールしていましたね。生徒が生徒に呼びかけるのが、一番アピール度が高い。

他にもそのようなものがあればバラエティに富んでいいですね。

教員 A（陪席）：英会話サークルも部員集めには躍起になっているのですが、毎週放課後に 1 時間半ほど出かけて行って英語を教えています。それを必ずできますかと問われ、負担とを感じる生徒は入れない。スポットなら入りたいという 1 年生はいました。

副校長（陪席）：今、スポットでという話がありましたが、有識者の委員の方に事前にお話しさせていただいたときに、もっと関西外語専門学校という留学生もいる環境を生かせないか、という話を伺いました。

関西外語専門学校には KI 以外に英語ビジネス系専門課程、日本語教育学科という部門があります。年齢の違いがあると、課題や問題が出てくるかもしれませんがそれを恐れずに、たくさんの留学生がいる環境を生かして、スポットでの交流機会があればいい。先日も日本語教育学科からの紹介で、（修学旅行に来た）タイの中学生が KI の 1 年生と交流しました。いろいろな興味が広がっていくきっかけになるかと思います。学校全体の総合力を生かした形で、課外活動も定例で行うもの、スポットで行うものをうまく織り交ぜていければと考えております。

保護者 D：うちの子は特に、学校がこうなって欲しいとかいう意見を家で言うことはありませんが、学校が大好きで、授業が終わってもすぐに帰りたくないと言っています。これがしたいという意見はないようですが、部活のような楽しさを共有できるものがあつたらいいのにと、心の中で思っているかもしれません。特に何がしたいとは言っていないですが、少しの時間でも仲のいい友達とできることがあれば、より充実した学校生活を送れるのではと、今回思いました。

副校長（陪席）：まだ何がしたいかわからないようですか？

保護者 D：絵が好きで、今年、選択授業で美術の授業を受けられることを喜んでいました。これができないといけない、とかいうのではなく、同じく少し何かしたいという子たちが週に 1 回集まるとかあればいいと思います。

副校長（陪席）：その気持ちがあれば、何かできそうですね。趣味のグループとして生徒からリクエストがあれば対応したいと思います。

では、2 年生の担任から見ていて、生徒の様子はどうですか？

教員 C（陪席）：1 年生の時から仲良しグループで、一緒に動画を見たり、楽しそうに平和に学校生活を送っているように見えます。いつも、元気に挨拶をして帰っていきます。

保護者 E：うちの子どもを見ている限り、学校行事も課外活動も充実していると思っているようです。好きなことをどんどん見つけてくる子で、英会話サークルもやりたいことだったから楽しんでやっているといます。

明確に目的があれば有意義に学校生活が送れると思いますが、積極的でない子は物足りないと思うかもしれませんね。個人でいろいろするのは難しいと思うので、先生たちに相談して、仲良しのグループや同じ趣味の人たちが集まれば、新たな活動が何かできるのかもしれない。

KI に来れば、何か変わるかも、と期待している部分もあります。

副校長（陪席）：先生方にお尋ねしますが、いろんなタイプの生徒がいる中で、積極的でないお子さんはどのように KI で過ごしていますか。

教員 B（陪席）：いろんなタイプの子を受け入れるという心の広さを KI の生徒は持っていると思います。小中学校時代にしんどい目をしてきた子が多い分、他の子の気持ちも分かってあげられるので、みんな居心地がいいんでしょう。

保護者 F：小さなコミュニティーで、自分と気持ちが通じる子が増えて、ぶつかったり、挫折したり。私は親としては、そこまで課外活動に対して期待しているものはない。でも、自分のしたいことは主体性をもって発言できる環境なので、友だちと意見を出し合っ、コミュニケーション能力を高められる環境だと思うんです。自己アピールを学習できる授業があってもいいと思います。

Halloween イベントにバンドで出ようと誘われて、以前やっていたドラムを再開しようかと言っていました。音楽や絵など個人で才能のある子がいるようなので、恥ずかしいと思っている子でも、少しずつ自分を出せるようになるきっかけになっていったらと思います。本当はみんな、自分を出したいはず、と思っているので、出せる環境を KI に期待しています。そういうきっかけの一つとして、Halloween Party は楽しみにしています。自分を出すチャンスなので、みんながそれを受け入れる場所になって欲しいです。

教員 B（陪席）：クラブ活動というのは、子どもたちにとって学びの場だというのはよく分かっています。ですが、その活動には教員として覚悟が要ります。ちょっとした活動であっても、場所も必要ですし、目を掛けていないといけません。KI ではその人員が足りないです。

副校長（陪席）：冒頭に有識者の委員がおっしゃられた通り、クラブ活動は特別活動の位置づけにはなく、今クラブ活動そのものを KI に持ち込むのではなく、現在ある課外活動的なもの、私たちの環境の中で許されるものを、考えていきたいと思っています。「そういうものなら出来る」というものを模索したい。

教員 B（陪席）：同好会を設立したい、先生に相談をして活動したい、ということはできますが、学校で何かすることになったら先生を雇用しなければ前に進めない。学校には雇用に関することを考えていただきたいなと思います。

副校長（陪席）：そこは総合的に考えていきたいと思っています。

外部有識者：課外活動には縛りがないんです。ボランティア活動も学校外活動も課外活動で

す。型にはめる必要はない。しかし、やっぱりスタッフの問題、運営の問題がある。そうではなく、違う形の課外活動ではどうでしょうか。例えば、ボランティア活動がしたい生徒がいた場合に、こんな活動があるよとプラットフォームのようなものを紹介し、生徒は自分の興味のあるものを選んで参加すればいい。その意義を学校として評価する、というのも一つの方法ですね。生徒が社会の活動に入っていく入り口を学校で提供し、学校の中ですべてを抱え込む必要はない。情報提供はするが、活動するのは生徒自身であるし、その活動の中で、自分の将来に気づききっかけがあれば、一つの教育効果かと思います。生徒が何かしたいと内に抱えているものが、どこにいけば見つかるのか、そういうときの情報提供の場を広げて欲しいです。

教員 B (陪席)： 結構、ボランティア活動の情報も生徒に向けて発信しているつもりです。でもそのためには教員一人ひとりがいろんなネットワークを持っていないと、情報が入ってきません。教員も情報収集する努力が必要だと思います。

副校長 (陪席)： 新しい動きとしては、奈良クラブ(*)主催試合のボランティアスタッフとして活動することもあります。(*)KIにはサッカーJ3の奈良クラブのユースに所属する在籍生が多くいる。

保護者 A： ある区で中学生に勉強を教えるボランティアは、B 教員に紹介いただきました。

副校長 (陪席)： 生徒の興味のあることにつないでいける、学校としてのネットワークづくりをしていきたいと思います。

副校長 (陪席)： 保護者の方からも課題と思われる点があれば、上げていただければと思います。

保護者 F： 先ほど副校長がおっしゃった、他部門の留学生とのグローバルな交流ができればうれしいです。英語は学びたいけれども、英語を習得した上でどうしていきたいかという将来の選択肢を広げるヒントになったらいいなと思います。

副校長 (陪席)： 私たち KI の教員の研修でも、多言語に関心を持てるようになると、英語だけでなく、より自分の関心のある言語に深く入っていけるという話がありました。

ほかには、台湾研修旅行の際は、日本語教育学科の台湾からの留学生に来てもらって事前学習会をしました。

言語を中心に置きながら、いろんな展開ができる可能性があると思います。

他部門が年上なので、いろいろケアも必要ですが、いいプログラムを考えていきたいと思います。

保護者 C： 私も来校する度に、いろんな国の方がいらっしゃるんだと思っていましたが、関わりがないのはもったいないと思っていました。

部活動の顧問の先生を外部に委託するニュースなどがありますが、それだとまた学校の負担になってしまいます。

例えば、1 教室を放課後に解放し、ある日はタイの人に呼びかけて、ある日はイン

ドの方に声を掛けて、交流の場を校内に設けることはどうでしょうか。留学生に日本語を伝えることも出来ますよね。お互いメリットがあり、危険でない方法となると、先生に少し見に行っていただくこともできる学校内ならできるのではないのでしょうか。

副校長（陪席）： 今後考えていきたいと思います。

副校長（陪席）： アンケートの結果を見ますと、KIの事務局の評価はすごく高いですね。事務長から一言。

事務長（陪席）： 私は前に出て話したり、電話対応をしたりが得意なんです、私の周りも積極的に仕事をする人が多いです。

保護者 F： 学費のことで電話することも多いのですが、細かく丁寧に対応していただけています。

事務長（陪席）： 教育の足を引っ張らないよう、丁寧に仕事をしています。

外部有識者： 進路指導について、高等専修学校自体が抱える問題だと思うのですが、大学の公募制推薦で受験資格を認めていないところが多い。この場でどうこういう問題ではないのですが、世間に発信していった方がいいと思います。生徒の不利益にならないようになってほしい。

教員 B（陪席）： 数学や理科が必修でないので、大学側の気持ちが分からないこともないです。でも、こちらからアピールする必要があります。

副校長（陪席）： 現実には、一般入試などで高等専修学校卒業の生徒も入学しているので、違いがないということは大学も分かるはずなのですが。

これは高等専修学校の歴史も関係していることで、もともとは職業教育の役割が大きかった。大阪府は高等学校と違う扱いをしないという施策をとっているんですが、全国区でない。そのため、通信制の高等学校を併修してもらって対策をしているのですが、本来であれば高等専修学校として受験資格を認めていただきたい。KI生には充分その実力はあります。他の高等専修学校も進学が増えてきています。高校から大学への進学が多様化しているのと同時に、中学から高校への進学も多様化しています。特に不登校児に関して、自分の好きな分野が学べる高等専修学校に行けば、中学校時代に不登校気味であった生徒も通うことができるようになったり、そこから大学へ進学したりと、全体の様子も変わってきている。一層、高等専修学校として声を上げやすい環境になってきている。その際には、保護者の皆さんの後押しが必要となりますので、ご協力をお願いします。

教員 B（陪席）： 有識者の委員の方(*)と一緒に3年生を担当していた時には、個別に大学を訪問して本校を説明して回ったこともある。(*)有識者の委員方は、以前KIで教員をされていた。

当時、それで指定校推薦をいただいた大学もありますし、今年はやっと関西外国語大学からも指定校推薦をもらうことができました。

事務局長（陪席）：大阪府でも高等専修学校が対象外の奨学金があります。

教員 A（陪席）： ぜひ今後認めていただきたいですね。

副校長（陪席）： 最後におっしゃっておきたいことがあれば、ひとことお願いいたします。

保護者 B： あっという間の3年間でした。本人の進路が決まるまでは大変でしたが、落ち着きました。お世話になりました。ありがとうございました。

保護者 C： 毎日楽しく過ごしていて、前向きに進んでいます。

いろいろなインフォメーションをさくら連絡網で保護者にも発信して欲しいです。聞き流してしまっている子にも、（保護者に送っておけば）参加できるきっかけになる。みんなが共通の情報を得られるツールはさくら連絡網だと思うので活用して欲しいです。

保護者 D： こんなに楽しく学校に通っていて、ありがたいです。

保護者 E： 教職員との距離が近くていいと思います。

保護者 F： 健康に留意して楽しく通学してほしいです。学習も自分の好きな科目に特化しても頑張るように伝えています。

楽しかったと毎日帰ってくるので良かったです。いつもありがとうございます。

外部有識者： こうして保護者の方とお話しするのは久しぶりです。大学では保護者と話す機会はありません。

よく中学校高校は行くのですが、日本の学校は抱え込みすぎで疲弊しています。どこかで学校ではなく、社会が担うなどの線引きが必要です。KI は他にできないことができる場だと、保護者の方の話しを聞いていて感じました。

副校長（陪席）： これからの KI の教育活動や運営の改善に繋がるご意見を頂戴しまして、本当にありがとうございました。

これをもちまして閉会といたしますが、本日の委員会において、日常の教育活動の自己評価における妥当性についても、確認することが出来感謝でございます。

2023年度アンケート(生徒)

「生きた英語」を学びたくて、KIHsを志願した。	よく あてはまる 69.8%	やや あてはまる 20.1%	あまり 当てはまらない 8.6%	まったく 当てはまらない 0.7%	わからない (判断できない) 0.7%
KIHsを志願した際、日本(社会)のグローバル化を意識した。	よく あてはまる 36.1%	やや あてはまる 30.3%	あまり 当てはまらない 23.0%	まったく 当てはまらない 5.7%	わからない (判断できない) 5.0%
KIHsへ登校するのが楽しい(楽しくなっている)。	よく あてはまる 52.5%	やや あてはまる 31.0%	あまり 当てはまらない 14.1%	まったく 当てはまらない 1.5%	わからない (判断できない) 0.9%
KIHsの生徒として誇りをもっている。	よく あてはまる 40.4%	やや あてはまる 33.2%	あまり 当てはまらない 18.9%	まったく 当てはまらない 5.0%	わからない (判断できない) 2.4%
KIHsの教職員は生徒の気持ちや思いをよく理解してくれる。	よく あてはまる 46.0%	やや あてはまる 37.2%	あまり 当てはまらない 12.2%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 3.7%
KIHsの教職員は叱咤激励してくれる。	よく あてはまる 48.5%	やや あてはまる 37.7%	あまり 当てはまらない 12.1%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 1.7%
KIHsで有意義な高校生活を送っている。	よく あてはまる 60.5%	やや あてはまる 30.7%	あまり 当てはまらない 6.7%	まったく 当てはまらない 2.2%	わからない (判断できない) 0.0%
授業が楽しい。	よく あてはまる 43.7%	やや あてはまる 39.8%	あまり 当てはまらない 13.1%	まったく 当てはまらない 3.4%	わからない (判断できない) 0.0%
授業は自分にとって有意義で、多くのことを学んでいる。	よく あてはまる 50.7%	やや あてはまる 34.4%	あまり 当てはまらない 11.2%	まったく 当てはまらない 2.7%	わからない (判断できない) 1.0%
昨年の4月に比べて自分の英語力は向上したと思う。	よく あてはまる 56.7%	やや あてはまる 30.4%	あまり 当てはまらない 9.1%	まったく 当てはまらない 2.4%	わからない (判断できない) 1.5%
外国人の先生の授業では、英語で発言する機会が多い。	よく あてはまる 60.7%	やや あてはまる 31.1%	あまり 当てはまらない 6.5%	まったく 当てはまらない 1.7%	わからない (判断できない) 0.0%
世界のことや国際的なことをこの1年でたくさん学んだ。	よく あてはまる 60.1%	やや あてはまる 30.5%	あまり 当てはまらない 5.7%	まったく 当てはまらない 3.7%	わからない (判断できない) 0.0%
授業のおかげで、この社会やいろいろなことに関心を抱くようになった。	よく あてはまる 52.4%	やや あてはまる 26.0%	あまり 当てはまらない 15.6%	まったく 当てはまらない 3.8%	わからない (判断できない) 2.3%
授業で分からない点があれば、あとで先生に個人的に質問できる。	よく あてはまる 52.3%	やや あてはまる 33.1%	あまり 当てはまらない 11.2%	まったく 当てはまらない 2.0%	わからない (判断できない) 1.4%
先生は熱心に授業に取り組んでいる。	よく あてはまる 54.3%	やや あてはまる 38.7%	あまり 当てはまらない 2.6%	まったく 当てはまらない 3.1%	わからない (判断できない) 1.3%
生徒の悩みや思いを受け止め、適切なアドバイスをしてくれる先生がいる。	よく あてはまる 56.4%	やや あてはまる 33.4%	あまり 当てはまらない 7.6%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 1.7%
担任の先生は親身に相談にのってくれるので信用している。	よく あてはまる 56.1%	やや あてはまる 32.7%	あまり 当てはまらない 7.1%	まったく 当てはまらない 2.4%	わからない (判断できない) 1.7%
先生のアドバイスは人権尊重に基づいており、体罰などはない。	よく あてはまる 78.4%	やや あてはまる 13.9%	あまり 当てはまらない 4.5%	まったく 当てはまらない 1.0%	わからない (判断できない) 2.3%
自分の将来進路について考える機会が提供されている。	よく あてはまる 59.2%	やや あてはまる 33.6%	あまり 当てはまらない 3.9%	まったく 当てはまらない 2.5%	わからない (判断できない) 0.7%
授業やHR、先生のアドバイスは進学など将来進路の実現に役立つと思う。	よく あてはまる 54.7%	やや あてはまる 30.8%	あまり 当てはまらない 9.6%	まったく 当てはまらない 3.3%	わからない (判断できない) 1.7%
卒業生の進路状況や進路実績を評価している。	よく あてはまる 51.0%	やや あてはまる 33.0%	あまり 当てはまらない 7.7%	まったく 当てはまらない 2.4%	わからない (判断できない) 5.9%
学校行事・課外活動は充実している。	よく あてはまる 40.6%	やや あてはまる 26.9%	あまり 当てはまらない 24.5%	まったく 当てはまらない 6.6%	わからない (判断できない) 1.4%
学校行事・課外活動を通じてさまざまな経験ができる。	よく あてはまる 45.6%	やや あてはまる 34.9%	あまり 当てはまらない 14.5%	まったく 当てはまらない 5.0%	わからない (判断できない) 0.0%
学校行事・課外活動を通じて生徒間の交流ができる。	よく あてはまる 47.7%	やや あてはまる 37.8%	あまり 当てはまらない 10.2%	まったく 当てはまらない 4.3%	わからない (判断できない) 0.0%
教室その他、施設は清潔であり、必要最小限の施設設備は整っている。	よく あてはまる 58.9%	やや あてはまる 28.6%	あまり 当てはまらない 9.7%	まったく 当てはまらない 2.1%	わからない (判断できない) 0.7%
防犯面の管理が行われていて、安心して学校生活を送れている。	よく あてはまる 63.2%	やや あてはまる 26.9%	あまり 当てはまらない 6.7%	まったく 当てはまらない 1.4%	わからない (判断できない) 1.8%
事務職員は親切に対応してくれる。	よく あてはまる 76.3%	やや あてはまる 17.5%	あまり 当てはまらない 6.2%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 0.0%

KIHSを志願した際、日本(社会)のグローバル化を意識した。	よく あてはまる 45.3%	やや あてはまる 37.5%	あまり 当てはまらない 10.9%	まったく 当てはまらない 3.1%	わからない (判断できない) 3.1%
KIHSを志願した際、「生きた英語」の必要性を意識した。	よく あてはまる 70.3%	やや あてはまる 25.0%	あまり 当てはまらない 1.6%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 1.6%
KIHSの方針や教育活動全般について保護者として賛同している。	よく あてはまる 60.9%	やや あてはまる 34.4%	あまり 当てはまらない 3.1%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 0.0%
KIHSに子どもを入学させてよかったと思う。	よく あてはまる 76.6%	やや あてはまる 20.3%	あまり 当てはまらない 1.6%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 1.6%
KIHSの教職員は生徒の気持ちや思いをよく理解してくれるようだ。	よく あてはまる 59.4%	やや あてはまる 34.4%	あまり 当てはまらない 3.1%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 3.1%
KIHSの教職員は生徒をよく叱咤激励しているようだ。	よく あてはまる 46.9%	やや あてはまる 34.4%	あまり 当てはまらない 9.4%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 9.4%
KIHSで有意義な高校生活を送っているようだ。	よく あてはまる 67.2%	やや あてはまる 28.1%	あまり 当てはまらない 1.6%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 3.1%
授業は楽しいようだ。	よく あてはまる 65.6%	やや あてはまる 25.0%	あまり 当てはまらない 7.8%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 1.6%
有意義な授業が多く、多くのことを学んでいるようだ。	よく あてはまる 56.3%	やや あてはまる 34.4%	あまり 当てはまらない 6.3%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 3.1%
KIHSに入学してから英語力は向上したようだ。	よく あてはまる 64.1%	やや あてはまる 23.4%	あまり 当てはまらない 7.8%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 4.7%
外国人の先生の授業では、英語で発言しているようだ。	よく あてはまる 48.4%	やや あてはまる 31.3%	あまり 当てはまらない 4.7%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 15.6%
授業で分からない点があれば、後で先生に個人的に質問できるようだ。	よく あてはまる 46.9%	やや あてはまる 23.4%	あまり 当てはまらない 12.5%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 17.2%
この社会や世界のことに関心を持つようになったようだ。	よく あてはまる 45.3%	やや あてはまる 43.8%	あまり 当てはまらない 4.7%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 6.3%
先生は熱心に授業に取り組み、よく指導してくれているようだ。	よく あてはまる 56.3%	やや あてはまる 39.1%	あまり 当てはまらない 1.6%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 3.1%
先生は、生徒の悩みや思いを受け止め、適切なアドバイスをしてくれる	よく あてはまる 40.6%	やや あてはまる 32.8%	あまり 当てはまらない 6.3%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 18.8%
保護者として、担任をはじめとして教職員に相談しやすい。	よく あてはまる 50.0%	やや あてはまる 39.1%	あまり 当てはまらない 6.3%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 3.1%
担任は、生徒の個性や資質を踏まえて、適切な指導をしている。	よく あてはまる 48.4%	やや あてはまる 31.3%	あまり 当てはまらない 7.8%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 12.5%
以前と比べると、子どもの学習意欲が高まり学力が向上している。	よく あてはまる 46.9%	やや あてはまる 34.4%	あまり 当てはまらない 12.5%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 4.7%
子どもの素質や希望を受け止め、適切な進路指導がなされている。	よく あてはまる 43.8%	やや あてはまる 35.9%	あまり 当てはまらない 10.9%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 9.4%
卒業生の進路状況や進路実績を評価している。	よく あてはまる 51.6%	やや あてはまる 32.8%	あまり 当てはまらない 6.3%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 9.4%
学校行事・課外活動は充実していると思う。	よく あてはまる 34.4%	やや あてはまる 42.2%	あまり 当てはまらない 15.6%	まったく 当てはまらない 3.1%	わからない (判断できない) 4.7%
学校行事・課外活動を通してさまざまな経験をしているようだ。	よく あてはまる 43.8%	やや あてはまる 32.8%	あまり 当てはまらない 14.1%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 7.8%
子どもは学校へ行くのが楽しいようだ。	よく あてはまる 68.8%	やや あてはまる 20.3%	あまり 当てはまらない 3.1%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 6.3%
KIHSでは、良い交友関係が築かれているようだ。	よく あてはまる 67.2%	やや あてはまる 21.9%	あまり 当てはまらない 3.1%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 7.8%
個人情報やプライバシーが守られ、人権が尊重されている。	よく あてはまる 48.4%	やや あてはまる 29.7%	あまり 当てはまらない 6.3%	まったく 当てはまらない 1.6%	わからない (判断できない) 14.1%
教職員から家庭への事務連絡はきめ細かく行われている。	よく あてはまる 57.8%	やや あてはまる 29.7%	あまり 当てはまらない 12.5%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 0.0%
学費・奨学金など、事務局の職員は、適切に対応している。	よく あてはまる 76.6%	やや あてはまる 20.3%	あまり 当てはまらない 1.6%	まったく 当てはまらない 0.0%	わからない (判断できない) 1.6%